

【様式第 4 号】

令和 7 年度 第 9 回 保土ヶ谷区障害者自立支援協議会 区精神 net 会議録	
日時	令和 8 年 1 月 13 日 (火) 15:45~17:30:
開催場所	保土ヶ谷区役所 5 階 501・502 会議室
出席者 (敬称略)	全体進行:保土ヶ谷区生活支援センター わおん、よりどころメンタルクリニック、さーくる・常盤台病院、リビットはうす、たちばな会、SSJ、 いろうり、ヴィストキャリア、今井ケアプラ、仏向ケアプラ、保土ヶ谷介護事務所、区、基幹、生 活支援センター
欠席者	銀河
開催形態	公開(傍聴人: 名)・ <u>非公開</u>
議 題	<p>1. 情報共有</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・たちばな会(家族会)より : 1 月 24 日 落語会実施のお知らせ</li> <li>・リビットはうす横浜より : 3 月 体験・見学可能</li> <li>・横浜 SSJ より : 3 月 4 日 就労移行支援事業所 合同説明会のお知らせ、利用者募集のお知らせ</li> </ul> <p>〈区精神 net より〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全体会</li> </ul> <p>今年度の全体会は AI 要約を導入するなど、多様な形式で開催できた。また、わいわいフェスティバルや包括と共催でささえあい研修等も開催、次年度以降も継続していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ほどほどの会</li> </ul> <p>令和 7 年度は、病院職員向けのアンケートを実施できた。現在は事業所紹介の動画を作成中。1/16 が動画締め切りだが、遅くなりそうであればご連絡ください。 また次年度の取り組みの中ではマンパワーとして net 参加者へ協力をお願いすることもありそう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アウトリーチ</li> </ul> <p>令和 7 年度は、現在動いているケースのモニタリング、新規受け入れ検討を実施。 また保土ヶ谷区のアウトリーチについてガイドラインを作成した。今後アウトリーチ支援についてのチラシと合わせて全体共有の予定。必要な方がいたら、利用できるようになることを目指していく。</p> <p>2. 次年度の区精神 net 計画案等について(「にも包括」について)の説明とワールドカフェスタイルのワークを実施</p> <p>〈ワークテーマ〉</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①精神の人が地域で“つまづきやすい場面”はどこ? (受診前/退院直後/服薬・通所/家族疲弊/近隣トラブル)</li> <li>②今“こぼれやすい人”は誰?(单身・未治療・8050 など)</li> <li>③“迷子にならない相談導線”にするなら、入口はどこ?何が足りない?</li> <li>④危機の“手前”で止めるには、どんな支援・連携があればよかった?</li> <li>⑤退院後 30 日で“必ず押さえる支援”は何?(住まい・お金・日中・孤立)</li> </ol>

⑥本人が“支援が良かった”と感じること／逆に離れる関わり方は？

⑦来年度、まず90日で試せる“小さな一歩”を1つ挙げるなら？

うち②、③について、2グループで意見交換を行う。

各グループで出た意見をAI予約したもの(一部抜粋)は以下となっている。

## ②今“こぼれやすい人”は誰？(単身・未治療・8050 など)

- 治療が進まず、適切なサービスにつながらない人(未治療・中断・病識が弱い等)。
- 支援(サービス)の必要性を理解してもらいにくい／人を受け入れない／他者を信頼できない人。
- SOSを出さない、迷惑をかけたくない、目立たず孤立している人(問題化しにくい)。
- 表面上は整って見えるが、実は限界が近い人(相談先が分かれば動ける可能性)。
- 『なんとなく働いていた』が、つまずいた途端に情報不足で孤立する人。
- 8050等で家族側が動けない(知識・体力・危機感の不足、地域の目が気になる等)。
- 親子ともに課題を抱える世帯、家族同居で抱え込むケース、女性の複合課題(DV、依存、孤立等)。
- 介護保険との境界にいる高齢層(65歳以上)で、制度の狭間に落ちやすい人。
- いったん何かにつながっても“こぼれてしまう”人(継続フォローの弱さ)。
- 細く長く関わりが必要で、アウトリーチがないとつながらない人。

〈キーワード〉

未治療・中断／信頼形成の困難／静かな孤立／8050・家族機能低下／制度の狭間(65歳)／継続フォローとアウトリーチ

## ③迷子にならない相談導線にするなら、入口はどこ？ 何が足りない？

- 相談行動そのもののハードルが高い(本人・家族とも)。
- 窓口は『多い方がよい』より、『機能している一本化(ワンストップ)』への期待が強い。
- 『後日連絡』は断線しやすく、家族は特に『今の困り』への即時性を求める。
- SOSをどうキャッチするか(本人の発信の弱さ、周囲の気づきの難しさ)が課題。
- 入口は区役所等の公的窓口が候補だが、そこから専門機関へ確実に“つなげる”仕組みが重要。
- 本人と家族で望む相談先やスピード感が異なることがある(本人の自己決定・自己解決力の育ち方も)。
- 安心材料として『事前に顔が見える(顔写真等)』、地元で相談しづらい人への配慮も挙げた。
- 家族会(たちばな会等)は中間性・入口として機能し得る一方、親の高齢化で離脱も起きやすい。
- 普及啓発・教育(学校教育に精神分野を組み込む等)も導線整備の一部として認識されている。

〈キーワード〉

ワンストップ／即時性／SOSキャッチ／自己決定／顔が見える安心／家族会の入口機能／普及啓発

### 3. 連絡事項・情報共有

なし

### 4. 次回全体会についてアナウンス

次回：2月10日(火) 15:45～

場所：保土ヶ谷区役所 5階 501・502 会議室

内容：R7年度 年間報告書、R8年度 年間計画書についての説明+グループワーク